

研究日誌

平成四年度 調査研究事業の大綱決まる

北海道地域農業研究所では去る三月三十日開催の第四回役員会で審議の結果、平成四年度の調査研究について、次の通り決定した。なお、事業の実施については、平成四年度の総会の議決を経て、幹事会で具体的に検討される。

一、独自研究のとらぐみ

独自研究は、昨年度からの継続研究である農協問題、生産構造問題を引き続き取り組み、一定の方向をとりまとめると共に、本年度は新たに、流通・消費問題、農村の生活・文化問題の研究に着手する。また、最近、各町村・農協段階で大きな関心を呼んでいる農業情報問題についても取り組む。

- (一) 農協の組織運営体制に関する研究（継続）

昨年度 農協の広域合併問題

を中心に研究をすすめてきた中で、多くの課題が提起されたが、農協の組織運営に関する課題を整理し、とりまとめを行う。

- (二) 農業生産構造に関する研究（継続）

生産構造問題については、地帯別に問題点を明らかにするため、昨年度、畑作、酪農問題にとりくんできたが、本年度は稲作地帯の生産構造問題にとりくみ、各地帯別に共通する生産構造問題を整理し、とりまとめを行う。

- (三) 流通・消費に関する研究（新規）

流通問題は、本年度から新たにとりくむ課題であるが、農畜産物の流通・消費問題は、関係機関団体の注目する課題であり、幅広い視野から分析を深め

ることを目的に、道立中央農試との共同研究体制を確立し、とりくむ。

- (四) 農村の生活・文化、環境整備に関する研究（新規）

府県の先進農協では、生活・文化活動の機能をもつ「生活センター」構想」を打ち出し、農村の過疎を防ぎ、地域の活性化がとりくまれている。本研究所も共同研究と関連して本問題にとりくむ。

- (五) 農業情報に関する研究（新規）

町村、農協では、営農・生活情報を農家に提供する、いわゆる農業情報センターを投置する事例が多くなってきた。これらの情報内容や、今後の情報システムのあり方については未整理の問題も多いことから、これまでの共同研究等の蓄積をもとに本年度から年次計画をたて、体系的な研究にとりくむ。

二、共同研究のとらぐみ

町村・農協との共同研究は三年目を迎えることとなるが、依然と

して、地域農業振興計画づくりの要望は強く、本年度も、協力研究員の援助を得て、次の通りとりくむ。なお、年度途中にも町村・農協からの依頼が想定されるが、これらについては研究所の実施能力を勘案して、着手を検討する。

- (一) 留萌地区広域農業振興計画の策定（継続）
- (二) 訓子府町農業振興計画の策定（新規）
- (三) 前田農協農業振興計画の策定（新規）
- (四) 北海道における農協生活事業の総合的展開についての調査（新規・ホクレン）

三、受託研究のとらぐみ

開発局、道等公的機関からの受託研究については、関係先へ積極的に働きかけ、確定次第とりくむ。

四、提案研究企画のとらぐみ

関係機関団体で緊急を要する問題を抱きながら単独ではとりくめない諸課題について、本研究が研究のシステムを構想し、提案することによって、関係機関団体と

連結しつつ、共同研究方式を構築
することを本年度から、新たにと
りくむ。



各種研究会等への

講師派遣

北海道地域農業研究所では、各
種研修会・研究会への講師派遣な
ど次のとおり対応している。

(平成四年一月～同年四月)

◎道北そ菜園芸振興会・講習会

主催 道北そさい園芸振興会

とき 平成四年一月三十一日

テーマ 野菜をめぐる環境と産地

形成について

派遣者 当研究所・富田常務

◎北松山町農民塾

主催 北松山町

とき 平成四年二月五日

テーマ これからの農業経済を

めぐる諸問題について

派遣者 当研究所・石田事務局長

◎由仁町農業委員・研究会

主催 由仁町農業委員会

とき 平成四年二月六日

テーマ 誰のための農業かー賢

易自由化時代の農業ー

派遣講師 道立中央農試 経営

部長 長尾正克

◎公社営農場リース事業十周年・

記念講演

主催 (財)北海道農業開発公社

とき 平成四年二月十二日鶴居

村・一四日歌登町

テーマ 活力ある酪農をめざし

て

派遣講師 酪農学園大学

教授 中原准一

◎喜茂別町農業生産推進大会講演

主催 喜茂別町

とき 平成二年二月二十一日

テーマ 野菜をめぐる環境と産

地形成について

派遣者 当研究所・富田常務

◎ホクレン酪農担当係長・担当者

研修会

主催 ホクレン酪農部

とき 平成四年二月二十八日

テーマ 北海道における園芸作

物の生産出荷の取り組み

派遣者 当研究所・富田常務

◎第七回鷹栖町公民館大会・講演

主催 鷹栖町教育委員会

とき 平成四年三月七日

テーマ 地域農業と女性の役割

派遣者 当研究所・幸研究部長

◎農業フォーラム

主催 (社) 日本中小企業技術振

興会北海道支部

とき 平成四年三月十二日

テーマ 日本の農業は大丈夫

か、日本の食糧に不安

はないか

パネリスト派遣者 当研究所・

富田常務

◎千歳市農業者研修会

主催 千歳市、農、畜産振興会

とき 平成四年三月十八日

テーマ 北海道農業の課題と今

後の取り組み方向

派遣者 当研究所・富田常務

◎松山支庁管内農業改良普及員・

総合研修会

主催 松山支庁

テーマ 北海道農業の課題と今

後の取り組み方向

派遣者 当研究所・富田常務

◎北海道開発局・農業研究会

主催 北海道開発局

とき 平成四年三月二十七日

テーマ 道産農産物の流通の現

状と今後の方向

派遣者 当研究所・富田常務

◎栗山町水田農業確立対策推進協

議会推進員・研修会

主催 同協議会

とき 平成四年三月三十・三十

一日

テーマ これからの栗山農業

派遣講師 北海道大学助教 坂下明彦

テーマ 農村における農業情報

システムの役割

派遣者 当研究所・中村専任研

究員

◎全道農協青年部長・研修会

主催 北農中央会・道農協青年

部協議会

とき 平成四年四月七日

テーマ 地球環境と農業ー持続

可能な農業発展を求めて
派遣者 当研究所・千葉所長

お知らせ

いますので、ご希望の方は申し込み下さい。

地域農業研究叢書 No. 1

・会報の購読について
会員以外で本誌の継続購読を希望される方は、「ご連絡ください」購読料

「都市近郊水田農業の構造問題と発展方向」―東旭川農協「中期振興計画策定に関する基礎調査」報告―

年間 二、〇〇〇円（四冊分）

地域農業研究叢書 No. 2

・研究叢書の頒布
地域農研と農協との共同研究成果をまとめた研究叢書を頒布します。

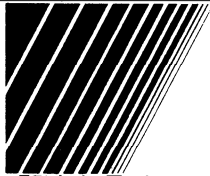
「広域合併農協における営農指導体制」―とうや湖農協「総合情報管理センターに関する調査」報告―

地域農業研究叢書 No. 3

「都市近郊、良質米、多収地域の農業構造と展開方向」―北野農協「北野地区における地域農業振興方策」基礎調査報告書―

地域農業研究叢書 No. 4

「旧開・高生産力地帯における個別営農展開の軌跡と地域農業振興の課題」―栗山町農業振興計画策定に関する基礎調査―
頒布価各一、〇〇〇円（送料込）
申込先 北海道地域農業研究所
☎〇〇一（七五）七七〇一



DATA FILE

関連事項 / DATA

拓殖大学北海道短期大学
〒074 深川市×ム4558
☎01642(3)4111

(財)日本植物調節剤研究会
〒110 東京都台東区台東1-26-6
☎03(3832)4188

(財)日本植物調節剤研究会 北海道支部
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目1-1 住友海上札幌ビル8F
☎011(281)4703

農林水産技術同友会 北海道支部
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目1-1 北農会内
☎011(251)3325

北海道除草剤研究会
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目1-1 住友海上札幌ビル8F
☎011(281)4703

渡島大野農業協同組合
〒041-12 亀田郡大野町本町170
☎0138(77)8331

生活協同組合市民生協コープさっぽろ
〒060 札幌市中央区北4条西11丁目13
☎011(271)7711

北海道女子短期大学
〒069 江別市文京台23
☎011(386)8011

埼玉大学 経済学部
〒338 浦和市下大久保255
☎048(852)2111

北竜町農協
〒078-25 雨竜郡北竜町字和36-3
☎016434-2211

(株)北海道協同組合通信社
〒060 札幌市中央区北4条西13丁目
☎011(231)5261

編集後記

田に水が張られ、水面が暖かい春の日差しにぴかぴかと光っている。田植えも始まり、農家は外の仕事に忙しく、いまの時期、わが研究所の調査にゆくり付き合っている暇はないだろう。

この時期、地域農研では今年度の研究課題について、実施のための種々の事前準備に追われている。昨年度に引き続き、今年度も各地域からの共同研究や委託研究の依頼がかなりきている。われわれ研究所の者の忙しさは当然ながら、今年もまた協力研究者の方々の手を大いに煩わせることになってしまつのは心苦しい。

『地域と農業』については何人か方から貴重なご意見頂いているが、できればより多くの読者からもご意見をお寄せ願いたい。編集に当たっては、独自性のある内容をと考えているが、五号の記事はどう読者に受けとめられたらうか、気にかかるところである。

(M・N)